

高麗神社奉賛会の概要と構成員

佐 藤 厚*

1. 問題の所在

埼玉県日高市に高麗神社^{こまじんじや}がある。これは8世紀の高句麗^{じゃっこう}の人、若光^{じゃっこう}を祀る神社であり、宮司は代々若光の子孫が務めている。現在の宮司は第60代の高麗文康氏である。

神社設立の背景は7世紀の朝鮮半島にさかのぼる。当時、朝鮮半島は高句麗、百濟、新羅の三国時代であった。新羅が中国の唐と連合し、百濟、高句麗を滅ぼすと、日本に遺民が渡来し各地に定住するようになった。716年、奈良の朝廷は、関東各地に散在していた高句麗人たちを現在の埼玉県に移住させ、高麗郡を建てた。そのリーダーが若光であった。若光の没後、その遺徳を偲ぶために造られたのが高麗神社である。

高麗神社は長く地域の神社として続いてきたが、近代になり注目されるようになる。1910年（明治43）に日本が大韓帝国を併合して植民地とし、韓国人を日本人に同化する政策を進めるようになると、古代に高句麗から日本に渡来し同化した高麗神社は、その活きた象徴とされるようになったのである。現在でも神社には、当時朝鮮を統治していた朝鮮総督府関係者から寄贈された石灯籠や樹木を見ることができる。

日本の敗戦から70年が過ぎ、現在、高麗神社は日本と韓国の友好の象徴

*専修大学ネットワーク情報学部特任教授

として存在している。日本だけでなく韓国からの観光客も数多く訪れている。特に今年（2016年）は高麗郡建郡から1300年にあたる記念の年ということで、様々な記念行事が行われている。

このような歴史を持つ高麗神社であるが、筆者は現在、近代の高麗神社の歴史に関心を持ち調査を続けている。前稿（佐藤 [2016]）では、従来よく整理されていなかった明治から昭和20年までの高麗神社の流れを整理し、近代の高麗神社の歴史を概観した。おおよその流れを説明すると次のようになる。

1. 1885年（明治18）内閣修史官・重野安繹^{やすつぐ}が高麗家に伝わる家系図を調査した。これにより高麗神社の重要性が認識された。1900年（明治33）には日本に亡命していた大韓帝国の政治家・趙重応が高麗神社を訪れた。趙は1200年前に同じ民族の人間が日本に移り住み存続していることに驚いた。そして宮司の高麗興丸^{こまおきまる}（57代）と親交を結んだ。

2. 1910年の日韓併合を経て1920年代になると、朝鮮総督府は植民地政策の一環として、朝鮮の人の日本観光団（内地視察団）を組織、派遣した。そのコースには高麗神社も入り、以後、数多くの朝鮮の人が訪れるようになった。これにより高麗神社が内外で知られるようになった。これに高麗興丸も積極的に応えていく。興丸にとって日韓併合は、自らのアイデンティティを世の中に役立たせる時代の到来と考えたのであった。

3. 1931年（昭和6）には高麗興丸が息子たちとともに『高麗郷由来』を刊行した。これは小冊子ながら高麗神社の正史と言えるものであり高麗神社に関する知識の普及に貢献した。

4. 1934年（昭和9）には神社の後援団体である高麗神社奉賛会が成立した。これは内鮮一体の象徴である高麗神社を後援し、社殿の改築などを行うための寄付金を集める組織である。新社殿は8年後の1942年（昭和17）に竣工した。

5. 1940年（昭和15）には当時朝鮮の京城（現在のソウル）にあった朝鮮神宮との樹木の交換が行われた。これは内鮮一体に関する宗教的な儀式であった。

6. 1943年（昭和18）以後、戦勝祈願がたびたび行われた。

この中、本稿では1934年（昭和9）に設立した高麗神社奉賛会（以下、奉賛会と略称）を取り上げ、その概要を紹介するとともに、構成員を分析することを目的とする。奉賛会は、高麗神社を日本、朝鮮に広く知らせる契機となり、さらに社殿の改築など現在の高麗神社の基礎を作る重要な働きをした。よって奉賛会の研究は現在の高麗神社の背景を知る上でも重要である。

特に構成員の分析は当時の高麗神社の日本での位置づけを知るために重要である。例えば、構成員の名簿には若槻礼次郎、近衛文麿、広田弘毅、頭山満など、著名人の名前が多い。よって多くの名士が参加したことがわかるが、具体的にどういう職業の人が何人いたのかを調査することにより、その性格を明確にすることができる。すなわち、どのような人々が高麗神社に関心を持ち発展させようとしたかを明らかにすることにより、近代日本における高麗神社の位相が明らかになることが期待される。これに関する先行研究は、管見では存在しない。

2. 概要

2-1 資料

奉賛会について知ることのできる資料は次の3つの文献である。

1. 武井文夫『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』（高麗神社奉賛会、1934）

2. 安成二郎「高麗神社」(『白雲の宿』越後屋書房, 1943)
3. 広瀬久忠「高麗神社奉賛会組織計画ニ関スル運動状況ノ件」
JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.B4012558100 本邦神社
関係雑件 第一巻10.高麗神社 (外務省外交史料館) 1934年作成

1は、奉賛会の実働部隊の中心人物であった武井文夫が編纂したもので、本文が13頁からなる小冊子であり、そこには会の目的や組織などが記される。武井は戦前の新聞社・万朝報の調査部長兼出版部長を務めていた人物である¹。

2は、作家の安成二郎が書いた随筆で、この中で安成が奉賛会設立に関わったことを述べている。

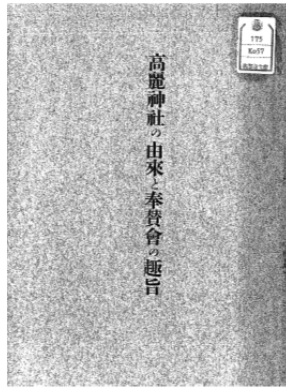
3は奉賛会組織の動きを埼玉県警察が調査し、埼玉県知事の広瀬久忠の名前で報告された機密文書である。これには奉賛会成立に関わる具体的な事柄が記される。

以下、まず資料の1『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』で奉賛会の概要を見た後、資料2, 3をもとに成立について触れる。

2-2 『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』と奉賛会の概要

『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』(表紙は画像1)の構成は次の通りである。(便宜上、番号を付した)

1. 写真 (高麗神社社殿)
2. 高麗神社参拝記念撮影 (2枚)
3. 高句麗の大版図 (地図, 年表)
4. 高麗神社の由来と奉賛会の趣旨
5. 高麗神社奉賛会 (会長, 理事名簿)
6. 本会評議員



画像1：『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』表紙（専修大学図書館所蔵）

7. 高麗神社奉賛会会則

8. 申込書

「1. 写真」と「2. 高麗神社参拝記念撮影」は写真であるが、中でも2は注目される。これは1933年（昭和8）、1934年（昭和9）に撮影された2枚の写真である（画像は巻末の画像3）。1933年の写真には高麗神社の興丸^{あきつ}、明津のほか、参拝に訪れた幸田露伴、三宅雪嶺、白鳥庫吉、伊東忠太などが写っている。1934年の写真には奉賛会会長の児玉秀雄、理事長の丸山鶴吉などが写っている。武井は、これを『奉賛会の趣旨』に掲載することで会の信用を高めたものと考えられる。「3. 高句麗の大版図」は高句麗について地図と年表により説明している。

続いて「4. 高麗神社の由来と奉賛会の趣旨」は冊子の中心となる部分であり、高麗神社の歴史を述べ支援を呼びかけている。内容は、高句麗滅亡と遺民の日本への亡命、古代の日朝関係、高麗郡の成立、若光と高麗神社の由来、高麗神社と関東との関係、若光の子孫の繁栄、からなる。そして最後に高麗神社の重要性を次のように述べる。なお原文の旧漢字は新漢

字にした。

我国各地に朝鮮関係の遺跡は少なくない、そして皆相当の歴史を持つてゐるが、この高麗村位史実が確かで、遺跡が明確で、而もその子孫が連綿として千三百年間も伝はつてゐるといつた所は外にはない。内鮮一体の活きた模型であり、活きた証拠である。(p.5)

それに続いて高麗神社の現状を嘆き援助を訴える。

かかる由緒深き高麗神社は、社殿も漸く曠廢し、神域も極めて狹隘で、この儘では或は神徳を傷くるの虞もないとはいへない実況である。茲に同志相謀つて、大方諸彦の御援助を仰ぎ、社殿を改築し、神域を拡張し、社格の昇進を願ひ以て益々神威神徳を發揚したいと考へた次第である。且つ内鮮一体を如実に立証してゐるこの神社を中心に、内鮮両民族の一層の親善融和の実を挙げんことを期する所以である。私共のこの微衷を容れて甚深の御後援を切に願ひする次第である。(p.6)

続く「5. 高麗神社奉賛会(会長、理事名簿)」,「6. 本会評議員」については次章で扱う。

「7. 高麗神社奉賛会会則」は全12条からなる。次に全文掲げる。なお原文の旧漢字は新漢字にし、カタカナをひらがなに改めた。／は改行を示す。

第一条 本会は高麗神社奉賛会と称し事務所を東京市に置く。

第二条 本会は武蔵国高麗神社及高麗王遺蹟を顕彰し、社殿の改修神域の拡張等を行ふを目的とす

第三条 本会は前条の外附帯事業として内鮮同化に関する文書の出版並びに内地在住の朝鮮同胞に対する社会的施設を行ふ

第四条 本会に左の役員を置く

会長 一名／理事長 一名／理事 若干名／顧問 若干名／評議員 若干名

第五条 会長は発起人会に於て之を推挙す、理事長、理事、顧問、評議員は会長之を委嘱す

第六条 会長は会務を総理し本会を代表す

第七条 理事長は会長を補佐して会務を執行す、理事は会務を分掌す

第八条 顧問は重要な会務に参与す

第九条 評議員は重要な会務を審議す

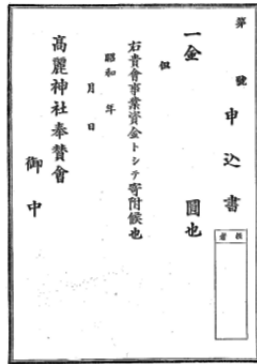
第十条 理事中より会計監督一名を選任す

第十一条 本会の経費は寄付金及び其他の収入を以て支弁す

第十二条 理事会は隨時之を開く

この中、第一条に説かれる事務所、すなわち奉賛会本部は東京市麹町区山下町一丁目一番地の東拓ビル411号室に置かれた。東拓ビルとは、戦前の日本において南満州鉄道株式会社（満鉄）と並ぶ二大國策会社であり、大東亜共栄圏内の植民地政策に関して特權的な利權を持っていた東洋拓殖の本社である。

第二条では目的として、高麗神社と高麗王の遺蹟の顕彰と、社殿の改修、神域の拡張を行うとある。そして第三条では高麗神社関係以外の附帯事業として、内鮮同化に関する文書の出版と内地在住の朝鮮同胞に対する社会的施設を行うという。この中、文書の出版については現在のところ武井文夫が著わした『高麗神社小記』（1934年11月）しかわかっていない。その他、「朝鮮同胞に対する社会的施設」がどのように行われたかは現在わからない。



画像 2：寄付金の申込書

(『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』，専修大学図書館所蔵)

第四条以降は役員，組織に関することがらである。これについては次章で見ることにする。

最期に「8 申込書」は寄付金を申し込むための用紙である。(画像 2 参照)

2-3 奉賛会成立の概略

続いて奉賛会成立の概略を述べる。成立年は『奉賛会の趣旨』が刊行された1934年（昭和 9）であろうが，具体的な会の発足日は不明である。現在，奉賛会の成立の経緯を伝える資料は 2 つある。ここでは簡単に紹介するに留め，詳しい考証は他日に譲る。

(1) 安成二郎「高麗神社」(『白雲の宿』越後屋書房，1943) の証言
一つは作家の安成二郎が「高麗神社」の中で語るものである(安成二郎[1943: 337-339])。安成は1933年（昭和 8）に高麗神社に興味を持ち，7 月に参拝の後，「内鮮融和の為にこの高麗神社を顕彰し，東京にいる半島の人々がこのお宮を心の故郷として精神的な慰安を得られるようにした

い」と思い、知り合いの大臣に手紙を書いた。すると大臣は、興味を示しながらも、これは政府のやる仕事ではないから安成に仕事をやるように言った。そこで安成は実業家の友人に相談した。のちに丸山鶴吉に相談して理事長になってもらい、奉賛会が成立した。事務所もそれ以来、東洋拓殖ビルの一室に置かれている。最初の会長は水町袈裟六であり、会が1934年に成立したが、亡くなったので、児玉秀雄が会長となった、という。

この中、水町袈裟六（官僚で大蔵次官、枢密顧問官などを歴任。法政大学総長を務める）が亡くなったのが1934年7月であるので、児玉秀雄を会長とした奉賛会が成立したのはそれ以後となる。

（2）広瀬久忠「高麗神社奉賛会組織計画ニ関スル運動状況ノ件」

もう一つは埼玉県知事・広瀬久忠の名前で1934年（昭和9）1月に作成された「高麗神社奉賛会組織計画ニ関スル運動状況ノ件」という機密資料である。これは奉賛会の動向について、埼玉県警が高麗神社宮司の高麗明津（第58代）に対して聞き取り調査を行い、それを整理したものである。内容は、総論に次いで、1. 奉賛会組織の経緯、2. 首謀者の活動状況、3. 地元関係者の態度、4. 現在の運動状況、5. 武蔵野鉄道株式会社との関連、6. 今後の運動方針、7. 其他参考事項からなる。以下では総論と「1. 奉賛会組織の経緯」の部分だけを紹介する。原文の漢字は新漢字に、カタカナは平仮名にした。

総論では奉賛会について「武蔵野鉄道株式会社の営業政策を根幹とし、発起人等の為にせんとする動機に出でたるものの如く、相当注意を要するものと認められ」と述べている。武蔵野鉄道とは、当時、池袋から飯能を経て吾野までの路線を経営していた鉄道会社である。後、西武鉄道に吸収され、現在、西武池袋線となっている。また発起人とは『奉賛会の趣旨』を著わした武井文夫、および今泉寛橋である。武井については前に紹介した。今泉寛橋は実業家で、大学卒業後、朝鮮で農場を営んでいた人物で

あり鉱業関係の会社も経営している²。この二人が中心人物とされている。

続いて「1. 奉賛会組織の経緯」を見る。奉賛会結成の端緒は、1933年（昭和8）6月、武蔵野鉄道常務の小高義一が高麗明津に会見を申し込み、東京の鉄道協会で会ったことに始まる。小高は明津に奉賛会の設立を提案した。それは1 神社の昇格、2 社殿の改築、3 神域の拡張を目的とするもので、さらにこれは宮内省などからの承諾を得ていると述べる。小高は明津に、奉賛会事業に協力する旨の同意書に署名するように促すが、明津は父親に相談した後に回答すると述べた。明津が父親・興丸に相談すると興丸は反対し、さらに高麗村出身で東京在住の囲碁棋士、井上孝平に相談したところ、井上も反対した。

第2回の会談は8月であった。明津は井上孝平とともに赴いた。相手方は小高に加え、武井と今泉らが同席していたという。この時は紹介だけで終わり、まとまった話はなかった。ただ、この時、明津は相手側が次の会話をしていたことを記憶している。

「平沼騏一郎は良く署名した」

「朝鮮殖産銀行頭取有賀光豊の紹介状は高島米峰に書いて貰った」

「頭山（満）の手形（紹介状ならん）も効目がない」

これらの生々しい発言は、後に見る奉賛会の評議員を募集している最中のものであろう。平沼騏一郎（当時、枢密院副議長、のち首相）、有賀光豊（貴族院議員、朝鮮殖産銀行頭取）、頭山満（アジア主義者）はいずれも評議員に名前を連ねている。また高島米峰は理事の一人である。

第3回目の会談は10月上旬に行われた。この時も何事もなかったという。第4回目の会談は11月中旬頃に行われた。この時、武井は明津に次のように言った。「奉賛会の事業が武蔵野鉄道の営業政策的に見らるるは事業遂行上遺憾である」、さらに次のように明津に注意した。

「名士の参拝は基金を募集する手段にして無理に斡旋参拝せしむるものなれば、極力気分を良くし、揮毫等迷惑になることは絶対に避けるように」

「我々は発起人や賛助員より寄附を受くるに非ず、名士の顔を揃えて三井三菱等の財閥より相当の基金を得るなり」

この中、「名士の参拝」とは、前述した『奉賛会の趣旨』に掲載された1933年（昭和8）、1934年（昭和9）に撮影された2枚の写真のうち、1933年（昭和8）のことであろう。この発言から推測すると、この時期には高麗神社も武井ら奉賛会に協力するようになっているようである。ここで武井が明津に対して指導する口調で話していることが注意される。

資料にはこれ以後も記録が続くが、紙幅の関係上、ここで止めておく。

（3）成立の謎

以上の二つの記録がどのように関係するのかはまだわからない。いずれにせよ、奉賛会成立準備の時期は『奉賛会の趣旨』刊行前年の1933年（昭和8）夏頃であること、鍵となる団体、人物は、武蔵野鉄道、安成二郎、武井文夫、今泉寛橘である。また会の発起および準備は高麗神社とは関係なく進行していたことが窺える。この経緯についてはさらに調査を続けたい。

3. 構成員

奉賛会の構成員は、大きく分けて幹部である会長、理事長、理事と、一般の評議員の2つからなる。『奉賛会の趣旨』には、氏名だけが記されて職業、肩書などは記されていない。ここでは各種の人名辞典等をもとにそれを明らかにし、高麗神社を後援した人々がどのような人々であったかを解明する。

3-1 会長、理事長、理事

まず会長、理事長、理事は次の<表1>のようである。備考欄には筆者

＜表1＞高麗神社奉賛会・役員一覧

役職	氏名	職業
会長	児玉秀雄	伯爵。内務大臣。貴族院議員。元：朝鮮総督府政務総監
理事長	丸山鶴吉	貴族院議員。元：朝鮮総督府警務局長。
理事	関屋貞三郎	貴族院議員。元：朝鮮総督府学務局長，静岡県知事。
同	伊東忠太	学者，建築家。平安神宮，朝鮮神宮，高麗神社などを設計。
同	白鳥庫吉	学者（東洋史）。東京帝国大学教授。
同	中山久四郎	学者（東洋史）。東京文理科大学教授。
同	宮田修	教育者。
同	武井文夫	言論人。万朝報の調査部長兼出版局長。
同	高島米峰	言論人。仏教者。
同	三宅雄二郎	言論人。
同	下中弥三郎	言論人。平凡社創設者。国家主義の立場に立ち団体を組織。
同	尾崎敬義	東洋拓殖株式会社理事。
同	永田秀次郎	拓殖大学学長。
同	今泉寛橘	実業家。

が調査した履歴を記す。また、『奉賛会の趣旨』では理事の名前の配列はイロハ順であるが，ここでは共通する職種ごとに並べた。

以下，簡単にコメントする。分類すると，1 朝鮮総督府関係者，2 学者，教育者，3 言論人，4 その他，からなる。

まず1 朝鮮総督府関係者を見る。会長の児玉秀雄は伯爵で，政務総監を務めた（1929－1931）。貴族院議員も務め，奉賛会成立の年の10月には岡田内閣の内相に就任している。身分といい，経歴といい国内および朝鮮に影響力を持つ人物であり，会長にふさわしい。理事長の丸山鶴吉は警務局長（1919－1924）を務めた。理事の関屋貞三郎は学務局長（1910－1919）を務めていた。いずれも要職である。

2 学者，教育関係者を見る。伊東忠太は建築家で，平安神宮，朝鮮神宮を設計した人物である。高麗神社の新社殿の設計も行った。

白鳥庫吉は東洋史の学者で東京帝国大学教授。広く東洋全体にわたり研

究をしており、その中に朝鮮史研究もある。

中山久四郎は東洋史の学者で東京文理科大学教授である。高麗神社の歴史にも詳しく、1931年（昭和6）に高麗興丸らが刊行した小冊子『高麗神社の由来』に序文を著わしている。また『歴史上にあらはれたる内鮮の融和』（中央朝鮮協会、1929）という講演も行っている。

宮田修は成女学園の校長を務めた教育者であるが、朝鮮半島や高麗神社とどのように関わるかはわからない³。

3 言論人を見る。武井文夫は、前述の通り万朝報に勤めていた人物で、奉賛会の実働部隊の中心メンバーである。1934年（昭和9）に『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』、『高麗神社小記』を著わしたほか、1937年（昭和12）に『朝鮮行政』に「古代に於ける日鮮同化」を載せている。

高島米峰は言論人、仏教者である。武井文夫〔1950：67－70〕によれば、高島は仕事ができる人として知られ、頼みごとをするのに誰に話を持っていけばよいのかなどの相談に乗ってくれたと言う。その中、武井が万朝報で『新日本史』を企画する際に責任者に三宅雄二郎を考えた時、高島の助言を受け実現したという。

三宅雄二郎は言論人である。三宅が奉賛会に入った経緯は、今述べた武井と高島との関係からだと考えられる。

下中弥三郎は言論人。教育者から教材刊行のための出版社・平凡社を創設した。1930年代から国家主義の立場に立ち団体を組織した。朝鮮半島や高麗神社とのかかわりはわからない。

続いて4.その他を見る。会計を務める尾崎敬義は、東洋拓殖株式会社理事である。東洋拓殖株式会社は奉賛会に事務所を提供するなど協力している。永田秀次郎は官僚、政治家で、東京市長を経て拓殖大学学長を務める。ただ朝鮮半島や高麗神社とのかかわりはわからない。今泉寛橘は前述の通り実業家であり、武井と共に奉賛会の実働部隊である。

3-2 評議員

続いて評議員156名を分析する。＜表2＞は評議員の氏名を五十音順で配列し、それに職種と職業を付したものである。職種の分類は、1 政治家、2 官僚、3 法曹人、4 軍人、5 経済人、6 学者、教育、7 言論人、8 文化人、9 宗教人、10思想家の10類である。

奉賛会設立当時の構成員の身分が重要であるから、職種、職業とも、判明する限り1934年当時のものにした。例えば官僚だった人が1934年当時、

＜表2＞評議員の氏名と職種、職業

	氏名	職種	職業
1	青木菊雄	5 経済人	財閥。三菱合資常務理事
2	赤池濃	1 政治家	貴族院議員、元：朝鮮総督府(内務局長、警察局長)
3	秋田清	1 政治家	衆議院議員、衆議院議員院議長、後、厚生大臣、拓務大臣
4	秋山雅之介	2 官僚	法政大学学長。元：朝鮮総督府参事官、朝鮮総督府：司法部長官
5	安達謙蔵	1 政治家	衆議院議員、元：乙未事変の一員
6	東武	1 政治家	衆議院議員、元：北海タイムス社経営者、北海道会議員
7	荒木貞夫	4 軍人	陸軍軍人。文部大臣、陸軍大臣、男爵。軍事参議官
8	有馬良橘	4 軍人	海軍軍人。枢密顧問官
9	有賀長文	5 経済人	農商務省工務局長、三井家同族会理事、三井合名常務理事
10	有賀光豊	1 政治家	貴族院議員、元：朝鮮殖産銀行頭取
11	安藤更生	6 学者	美術史家、東洋美術研究会創設、雑誌『東洋美術』発刊
12	安藤正純	1 政治家	衆議院議員、元：東京朝日新聞
13	池内宏	6 学者	東京帝国大学教授（東洋史学）
14	池田成彬	5 経済人	財閥。三井合名理事
15	井坂孝	5 経済人	銀行。横浜興信銀行頭取。のち東京瓦斯社長。枢密顧問官
16	伊沢多喜男	1 政治家	貴族院議員、元：東京市長、新潟県知事など
17	石塚英蔵	2 官僚	枢密顧問官。元：韓国統監府監査部長、朝鮮総督府取調局長官。東洋殖産株式会社総裁。台湾総督

18	磯村豊太郎	1 政治家	貴族院議員，元：三井物産。日本工業倶楽部四代目総裁
19	一瀬一二	1 政治家	衆議院議員，元：大日本新聞社を経営
20	井上孝平	8 文化人	囲碁棋士，埼玉県入間郡高麗村出身
21	井上太平	1 政治家	飯能町町長
22	今井五介	1 政治家	貴族院議員，元：片倉製糸紡績副社長
23	今井田清徳	2 官僚	朝鮮総督府政務総監，元：逓信次官
24	入江海平	2 官僚	満鉄理事，拓殖局書記官，中央朝鮮協会
25	植原悦二郎	1 政治家	衆議院議員，政治学者
26	内ヶ崎作三郎	1 政治家	衆議院議員，元：早稲田大学教授
27	大口喜六	1 政治家	衆議院議員，元：豊橋市長
28	大野謙三	5 経済人	銀行。飯能銀行
29	大橋新太郎	1 政治家	貴族院議員。博文館創設，日本工業倶楽部理事長
30	岡崎邦輔	1 政治家	貴族院議員，元：農林大臣
31	岡田忠彦	1 政治家	衆議院議員，元：埼玉県知事，長野県知事，東京市助役など
32	岡実	7 言論人	農商務官僚，大阪毎日新聞社会長
33	岡村竹三郎	1 政治家	高麗村村長
34	小笠原長生	4 軍人	海軍軍人。子爵。宮中顧問官
35	小川郷太郎	1 政治家	衆議院議員，京都帝国大学教授（財政学）
36	小高義一	5 経済人	鉄道。武蔵野鉄道株式会社常務
37	梶原伸治	5 経済人	銀行。日本銀行，横浜正金銀行。日本勧業銀行総裁
38	片岡安	5 経済人	建築。辰野金吾と辰野片岡建築事務所を開設
39	加藤久米四郎	1 政治家	衆議院議員，元：水野錬太郎の秘書官
40	加藤敬三郎	5 経済人	銀行。北海道拓殖銀行頭取，朝鮮銀行総裁
41	加藤武雄	8 文化人	小説家，代表作『郷愁』
42	加藤政之助	1 政治家	貴族院議員，ジャーナリスト，衆議院議員，大東文化学院総長
43	門野重九郎	5 経済人	財閥。大倉組副頭取。東亜興業，共栄起業などで会長，社長を務める
44	金杉英五郎	1 政治家	貴族院議員。医学者
45	金光庸夫	1 政治家	衆議院議員
46	上山満之進	1 政治家	貴族院議員，農商務次官，台湾総督，枢密顧問官
47	河合操	4 軍人	陸軍軍人。枢密顧問官
48	川崎克	1 政治家	衆議院議員，元：日本新聞社，元山時事新報（韓国）記者

49	川崎卓吉	1 政治家	民政党幹事長，元：法制局長官
50	神田庄助	1 政治家	高麗川村長
51	菊池武夫	1 政治家	貴族院議員，陸軍軍人，男爵
52	木下成太郎	1 政治家	衆議院議員，元：地方議員
53	木村雄次	5 経済人	生保。東洋生命保険株式会社々長
54	清浦奎吾	1 政治家	元：首相，貴族院議員
55	久原房之助	1 政治家	衆議院議員，元通信大臣，久原財閥総帥
56	倉富勇三郎	2 官僚	朝鮮総督府司法部長官，貴族院議員，枢密院議長を歴任
57	小泉又次郎	1 政治家	衆議院議員，元：通信大臣
58	幸田成行(露伴)	8 文化人	小説家，代表作『五重塔』
59	小杉未醒	8 文化人	洋画家
60	近衛文麿	1 政治家	貴族院議員
61	高麗興丸	9 宗教者	高麗神社第57代宮司
62	小山松寿	1 政治家	衆議院議員，元：名古屋新聞経営
63	後藤重吉	6 学者	高麗村の学校校長
64	後藤文夫	1 政治家	貴族院議員，岡田内閣の内務大臣
65	齋藤隆夫	1 政治家	衆議院議員
66	坂井徳太郎	4 軍人	陸軍軍人。歩兵第21連隊長
67	佐野善作	6 学者	会計学者，経済学者，教育家。東京商科大学初代学長
68	幣原喜重郎	1 政治家	貴族院議員，外交官
69	柴田善三郎	1 政治家	貴族院議員，元：朝鮮総督府学務局長
70	渋沢敬三	5 経済人	銀行。第一銀行取締役，第16代日本銀行総裁，大蔵大臣，子爵
71	島田俊雄	1 政治家	衆議院議員，元：法制局長官
72	清水銀蔵	1 政治家	衆議院議員，元：江州日日新聞社取締役
73	白石元治郎	5 経済人	鉄鋼造船。日本鋼管社長。東洋汽船，日本鋼管株式会社設立
74	白岩龍平	5 経済人	海運。大東汽船，湖南汽船など創設
75	菅原伝	1 政治家	衆議院議員，元：新聞社社長
76	菅原通敬	1 政治家	貴族院議員，大蔵次官，東洋拓殖総裁，枢密顧問官
77	鈴木喜三郎	1 政治家	衆議院議員，立憲政友会総裁
78	鈴木荘六	4 軍人	陸軍軍人。陸軍参謀総長。帝国在郷軍人会会長
79	関野貞	6 学者	建築史学者，東大教授
80	瀬下清	5 経済人	銀行。三菱銀行常務

81	高山長幸	5 経済人	東洋拓殖総裁。衆議院議員，銀行家，帝国商業銀行取締役会長
82	竹田儀一	1 政治家	衆議院議員，元：大阪市会議員，樺太ツンドラ工業社長
83	田中栄八郎	5 経済人	製紙。王子製紙
84	田中都吉	7 言論人	中外商業新報社長
85	田中穂積	6 学者	財政学者，法学博士，早稲田大学第4代総長
86	田中光顕	2 官僚	明治期に貴族院議員，宮内大臣を歴任
87	頼母木桂吉	1 政治家	衆議院議員，元：新聞社社長
88	俵孫一	1 政治家	衆議院議員，元：大韓帝国学部次官，朝鮮総督府臨時土地調査局副総裁。三重県知事，宮城県知事など
89	塚本靖	6 学者	建築。東京帝国大学工科大学名誉教授
90	次田大三郎	1 政治家	貴族院議員
91	筑波藤麿	1 政治家	貴族院議員，皇族，侯爵。歴史研究家
92	堤康次郎	1 政治家	衆議院議員，西武グループ創業者
93	頭山満	10 思想家	アジア主義者，玄洋社総帥，黒龍会顧問
94	床次竹二郎	1 政治家	衆議院議員，岡田内閣の通信大臣
95	中川小十郎	1 政治家	貴族院議員，文部官僚，立命館大学創立者。台湾銀行頭取
96	中野正剛	1 政治家	衆議院議員，東方会総裁
97	中村房二郎	5 経済人	銀行。横浜興信銀行取締役，日本経済連盟会理事
98	中山太一	1 政治家	貴族院議員，元：実業。中山太陽堂を創業
99	永井柳太郎	1 政治家	衆議院議員，元：拓務大臣
100	長嶋隆二	1 政治家	衆議院議員，元：日本銀行監査官
101	西田幾多郎	6 学者	京都大学教授（哲学），慶應義塾大学文学部講師
102	根津嘉一郎	1 政治家	貴族院議員，東武鉄道社長
103	野間清治	7 言論人	講談社創業者，報知新聞社社長
104	八田嘉明	1 政治家	貴族院議員。満鉄副総裁
105	鳩山一郎	1 政治家	衆議院議員，犬養内閣，斎藤内閣の文相
106	林銑十郎	1 政治家	軍人，岡田内閣の陸軍大臣
107	原邦造	5 経済人	生保。愛国生命社長など。東武鉄道など多くの企業の取締役を兼任
108	平沼騎一郎	2 官僚	枢密院副議長
109	比留間高次郎	1 政治家	埼玉県議会副議長，『高麗神社由来記』発行に関わる
110	広田弘毅	1 政治家	外交官，岡田内閣の外務大臣
111	藤沼庄平	1 政治家	貴族院議員，内務官僚，東京府知事，警視総監，内閣書記官長など

112	藤原銀次郎	1 政治家	貴族院議員，三井財閥の中心人物の一人，富岡製糸場支配人，王子製紙社長
113	朴泳孝	1 政治家	貴族院議員。韓国人
114	朴春琴	1 政治家	衆議院議員，韓国人
115	前田米蔵	1 政治家	衆議院議員，元：弁護士
116	真崎甚三郎	4 軍人	陸軍軍人。教育總監，軍事参議官
117	増田次郎	5 経済人	電気。大同電力社長
118	町田忠治	1 政治家	衆議院議員，岡田内閣の商工大臣，元：山口銀行
119	松井石根	4 軍人	陸軍軍人
120	松田源治	1 政治家	衆議院議員，岡田内閣の文部大臣，元：弁護士
121	松永東	1 政治家	衆議院議員，元：弁護士，東京市会議員
122	松本真平	5 経済人	食品。日東製粉，貴族院議員
123	三上於菟吉	8 文化人	小説家。代表作『雪之丞変化』
124	三上参次	1 政治家	貴族院議員，元：東京帝国大学教授
125	水野鍊太郎	2 官僚	元：内務大臣，朝鮮総督府政務總監，文部大臣，貴族院議員
126	三土忠造	1 政治家	衆議院議員，元：文部，大蔵，通信大臣
127	光永星郎	5 経済人	広告。電通創業者
128	南次郎	4 軍人	陸軍軍人。朝鮮軍司令官。のち第8代朝鮮総督
129	南鷹次郎	6 学者	農学者。北海道帝国大学名誉教授，北海道帝国大学学長
130	南弘	1 政治家	貴族院議員，元：内務省，台湾総督，通信大臣
131	水谷川忠磨	1 政治家	貴族院議員，男爵。内務大臣秘書官，大蔵大臣秘書官
132	宮崎一	1 政治家	衆議院議員，元：弁護士，埼玉県議会議員
133	宮島清次郎	5 経済人	紡績。日清紡績社長・会長，日本工業倶楽部理事長
134	宮田光雄	1 政治家	貴族院議員，衆議院議員，福島県知事，内閣書記官長，警視總監
135	向井巖	3 法曹人	大韓帝国の平壤控訴院検事長，平壤覆審法院検事
136	紫安新九郎	1 政治家	元：衆議院議員
137	望月軍四郎	5 経済人	鉄道。京浜電気鉄道取締役会長，民間支那学研究者
138	望月圭介	1 政治家	衆議院議員
139	守屋榮夫	1 政治家	衆議院議員，元：内務省参事官，朝鮮総督府秘書官，同秘書課長，同庶務部長
140	安成二郎	8 文化人	歌人，小説家。平凡社勤務。高麗神社奉賛会設立に尽力
141	矢野恒太	5 経済人	生保。第一生命保険創業者

142	山口義一	1 政治家	衆議院議員
143	山崎達之輔	1 政治家	衆議院議員，岡田内閣の農林大臣
144	山道襄一	1 政治家	衆議院議員，元：韓国で『大韓日報』主筆，併合後，雑誌『新半島』主宰
145	山名義高	5 経済人	鉄道。武蔵野鉄道社長
146	山本条太郎	1 政治家	衆議院議員，元：満鉄社長
147	山本達雄	1 政治家	元：内務大臣，日銀総裁
148	湯浅倉平	2 官僚	宮内大臣，元：朝鮮総督府政務総監
149	弓削幸太郎	2 官僚	朝鮮総督府学務課長，鉄道局長
150	横田秀雄	3 法曹人	裁判官（大審院長）
151	吉川英治	8 文化人	小説家。代表作『宮本武蔵』
152	米山梅吉	5 経済人	銀行。三井信託株式会社を創立，取締役社長。貴族院議員
153	李起東	5 経済人	東京でダンスホールを経営
154	若槻礼次郎	1 政治家	男爵。総理大臣（25代，28代）
155	渡辺錠太郎	4 軍人	陸軍軍人。軍事参議官兼航空本部長，大将
156	和田英作	8 文化人	洋画家・教育者。東京美術学校校長

政治家である場合，職種は政治家にした。職業の中で「元：」とあるのは，代表的な職業の前職を記したものである。

続いて＜表2＞をもとにした統計を示す。最初に（1）職種別人数・割合を示す。

（1）職種別の人数と割合

職種による分類は次の＜表3＞の通りである。

これをみると，職種の人数割合は多いものから政治家(52%)，経済人(18%)，官僚（8%），軍人（6%）の順である。このうち政治家が一番多く半分以上を占める。ただ，この中には経済人，官僚を務めながら議員を行う人物もいるが，それは反映されていない。いずれにせよ，奉賛会の構成員が政界，財界，官界を中心とすることがわかる。

＜表 3＞評議員の職種別の人数と割合

職種	人数	割合
1 政治家	82	52%
2 官僚	13	8%
3 法曹人	2	1%
4 軍人	10	6%
5 経済人	28	18%
6 学者, 教育	9	6%
7 言論人	3	2%
8 文化人	8	4%
9 宗教人	1	0.6%
10思想家	1	0.6%
合計	156	

以下、職種別にコメントする。

1 政治家

政治家は82名おり全体の52%を占める。82名の内訳は、a 国会議員が71名、b 国会議員以外（官僚で大臣を務めたり政党活動に従事した者）が7名、c 地方政治家が4名である。

a 国会議員71名の内訳は、衆議院議員が44名、貴族院議員が27名である。衆議院議員の数は第18回総選挙（1932年2月実施）で選出された議員数466名の1割弱である。党派別に見ると、立憲政友会が26名、立件民政党が15名、諸派が3名である。b 国会議員以外の人物は、広田弘毅、林銑十郎など7名。

a, bの中には首相経験者が2人（清浦、若槻）のほか、当時の岡田内閣の大臣が8名、元大臣が11名と、議員の中でも地位ある人々が名を連ねていることが注目される。

一方、c 地方政治家は、比留間高次郎（埼玉県議）、岡村竹三郎（高麗村長）、神田庄助（高麗川村長）、井上太平（飯能村長）などである。比留

間高次郎は高麗神社で発行した『高麗神社由来記』の発行人であり、また奉賛会の支部長を務めているように高麗神社と関係が深い人物である。その他の村長は高麗神社がある高麗村とその周辺の村の村長である。

2 官僚

官僚は13名おり全体の全体の8%を占める。ここでも要職にある者が多い。例えば枢密院副議長を務めた平沼騏一郎、また同じく枢密院の顧問官を務めた石塚英蔵は東洋拓殖の総裁も務めた人物である。水野鍊太郎は過去に内務大臣を務めたほか、朝鮮総督府の政務総監（第2代）も務めている。同様に当時宮内大臣を務めている湯浅倉平も総督府の政務総監（第5代）も務めた経歴を持つ。そして今井田清徳は、当時現職の政務総監（第8代）である。

3 法曹人

法曹人は2名おり全体の全体の1%を占める。横田秀雄（大審院長を務める）と向井巖（朝鮮で裁判官を務めた）である。

4 軍人

軍人は10名おり全体の6%を占める。内訳は陸軍8名（荒木貞夫、河合操、松井石根、南次郎、真崎甚三郎、渡辺錠太郎、坂井徳太郎、鈴木莊六）、海軍2名（小笠原長生、有馬良橘）である。この中で河合操と有馬良橘は枢密顧問官を、小笠原長生は宮中顧問官を務めている。

5 経済人

経済人は28名おり全体の18%を占める。業種で見ると、銀行が7名と多く、生命保険3名、その他、紡績、海運、広告、電気などがある。財閥関係では、三井は池田成彬（三井合名理事）、米山梅吉（三井信託）らがい

る。次に三菱は瀬下清（三菱銀行常務）、青木菊雄（三菱合資常務理事）らがいる。大倉では大倉組副頭取（門野重九郎）がいる。このほか高名な経済人には渋沢敬三（第一銀行、のち日銀総裁）がいる。その他、鉄道関係として、奉賛会の成立に名前が出た武蔵野鉄道の山名義高、小高義一がいる。大野謙三は埼玉の飯能銀行の関係者である。李起東は朝鮮人の実業家で当時、東京でダンスホールを経営していた。

経済人は、貴族院議員、衆議院議員に分類した人を入れるとその数は増える。満鉄、東洋拓殖などの植民地経営の国策会社の関係者では、菅原道敬（貴族院議員）は過去に東洋拓殖総裁を務め、高山長幸は現職の東洋拓殖社長である。有賀光豊（貴族院議員）は朝鮮殖産銀行頭取。山本条太郎（衆議院議員）は元満鉄社長である。鉄道関係では根津嘉一郎（貴族院議員）は東武鉄道の経営者である。

以上、経済人も財閥関係者をはじめ国策会社の社長や元社長など、重厚な人材が集まっていることがわかった。

6 学者

学者は9名おり全体の6%である。ほとんどが大学教授である。

法律、経済系では、田中穂積（財政学者、法学博士で早稲田大学第4代総長）、佐野善作（会計学者、経済学者、教育家で東京商科大学初代学長）がいる。人文系統では、西田幾多郎（哲学者で京都大学名誉教授、慶應義塾大学文学部講師）、池内宏（東洋史学専攻で東京帝国大学教授）、関野貞（建築史学者、東大教授）。安藤更生（美術史家）、工学、自然科学系では、塚本靖（建築学、東京帝国大学名誉教授）、南鷹次郎（農学者、北海道帝国大学名誉教授）がいる。なお後藤重吉は高麗村の学校校長である。学者ではないが教育関係であるからここに入れた。

7 言論人

言論人は3名おり全体の2%を占める。内訳は、野間清治（講談社創業者）、田中都吉（中外商業新報）、岡実（大阪毎日新聞社会長）である。

8 文化人

文化人は8名おり全体の4%を占める。内訳は小説家5名、画家2名、囲碁棋士1名である。小説家は安成二郎、三上於菟吉、加藤武雄、幸田成行（露伴）、吉川英治である。安成二郎は成立のところで見たように、高麗神社奉賛会を発案した人物である。画家は小杉未醒、和田英作である。そして囲碁棋士は高麗村生まれの井上孝平である。彼は奉賛会成立のところで見たように、高麗明津の相談に乗った人物である。

9 宗教人

宗教人の1名は高麗神社第57代宮司の高麗興丸である。

10 思想家

思想家の1名は戦前のアジア主義者として有名な頭山満である。頭山満については前に成立についてみた時、武井らが「頭山（満）の手形（紹介状ならん）も効目がない」と述べていた。ここから当時は頭山の名前で奉賛会への協力を募っていたことがあったことがわかる。

（2）その他の特徴

ここでは当時の職業以外の属性で共通するものを集めてみた。

1. 朝鮮半島に関係する人物

評議員の履歴の中で朝鮮半島に関係する人物は22名いる。整理すると＜表4＞の通りである。

この中、1 安達謙蔵、2 俵孫一、3 倉富勇三郎、4 向井巖は、ほぼ旧韓

<表 4>

	氏名	職種	朝鮮半島関係履歴
1	安達謙蔵	1 政治家	1895年（明治28）に起こった乙未事変（閔妃暗殺事件）の実行者
2	依孫一	1 政治家	大韓帝国学部次官，土地調査局副総裁
3	倉富勇三郎	2 官僚	司法・宮内官僚で韓国の法律を作る。
4	向井巖	3 法曹人	大韓帝国の平壤控訴院検事長，平壤覆審法院検事
5	水野鍊太郎	2 官僚	朝鮮総督府政務総監：第2代
6	湯浅倉平	2 官僚	朝鮮総督府政務総監：第5代
7	今井田清徳	2 官僚	朝鮮総督府政務総監：第8代
8	赤池濃	1 政治家	朝鮮総督府内務局長，警察局長
9	柴田善三郎	1 政治家	朝鮮総督府学務局長
10	弓削幸太郎	2 官僚	朝鮮総督府学務課長，鉄道部長
11	守屋栄夫	1 政治家	朝鮮総督府秘書官
12	有賀光豊	1 政治家	朝鮮総督府関税局，朝鮮殖産銀行頭取
13	秋山雅之介	2 官僚	朝鮮総督府参事官，司法部長官，中枢院書記官長事務取扱
14	菅原通敬	1 政治家	東洋拓殖総裁
15	石塚英蔵	2 官僚	東洋拓殖総裁
16	入江海平	2 官僚	満鉄理事，拓殖局書記官を経て，中央朝鮮協会
17	鈴木莊六	4 軍人	朝鮮軍司令官
18	関野貞	6 学者	建築史学者，『朝鮮古蹟図譜』を著述
19	山道襄一	1 政治家	日韓併合前後に『大韓日報』主筆，併合後，雑誌『新半島』を経営。
20	朴泳孝	1 政治家	韓国人。貴族院議員
21	朴春琴	1 政治家	韓国人。衆議院議員
22	李起東	5 経済人	韓国人。経済人，東京でダンスホール経営

末から併合時期に活動した人物である。5 水野鍊太郎から13秋山雅之介までは併合後に朝鮮総督府で活動した人々である。この中，現職も含めて政務総監が3名いることが注目される。これに会長の児玉秀雄を加えれば4名となる。14菅原通敬，15石塚英蔵，16入江海平は日本の植民地経営の国策会社に関わった人々，17鈴木莊六は朝鮮軍司令，18関野貞は学者，19山道襄一は言論人，20朴泳孝，21朴春琴，22李起東は韓国人で，前二人は議

員である。

2. 高麗神社あるいは埼玉に関係する人物

これは8名いる。高麗興丸（高麗神社第57代宮司）。井上孝平（囲碁棋士）。比留間高次郎（埼玉県議），岡村竹三郎（高麗村長），神田庄助（高麗川村長），井上太平（飯能村長），後藤重吉（高麗村の学校校長），大野謙三（飯能銀行関係者）である。全体からすると5%と少ない。

4. 結語

本稿では1934年（昭和9）に成立した高麗神社奉賛会について、その概要を見たのち構成員を分析した。内容を整理すると次のようになる。

第一に概要である。まず武井文夫『奉賛会の趣旨』をもとに整理した。中でも「高麗神社の由来と奉賛会の趣旨」では、高麗神社が「内鮮一体の活きた模型であり、活きた証拠である」と説かれ、それを護持することの重要性を説いていた。会則は全12条からなる。会の目的は二つあり、一つは高麗王遺蹟および高麗神社の顕彰，社殿の改修，神域の拡張である。もう一つは附帯事業として内鮮同化に関する文書の出版，内地在住の朝鮮同胞への社会的施設を行うことが定められた。

続いて奉賛会の成立の経緯を概観した。それには現在二説が伝わる。一つは安成二郎（作家）が発案，主導したものであり，もう一つは武蔵野鉄道，および武井文夫（言論人），今泉寛橘（実業家）らが関わったものである。両者の関係など詳しい経緯については今後の課題とした。

第二に構成員である。まず幹部（14名）である会長，理事長，理事それぞれの履歴を調査し，1 朝鮮総督府関係者，2 学者・教育者，3 言論人，4 その他に分類した。続いて評議員（156名）の職種を分類，分析した。内訳は政治家（82名），官僚（13名），法曹人（2名），軍人（10名），経済人



高麗神社参拝記念撮影 上 昭和八年九月二十四日 下 昭和九年九月三十日 同社・殿前にて
前列は高麗興丸齋と現社掌高麗明津氏 第二列左より文學博士幸田露伴氏・同三宅雪嶺氏・同白鳥庫吉氏・同中山
久四郎氏・工學博士伊東忠太氏・其のうしろ高島米峰氏其他
前列右より丸山理事長・高麗明津氏・兒玉會長・武井理事・第二列右より 今泉理事・上原埼玉縣學務部長・尾
崎理事其他

画像3：名士の参拝(『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』，専修大学図書館所蔵)

(28名)，学者・教育者（9名），言論人（3名），文化人（8名），宗教人（1名），思想家（1名）である。ここから政治家が半数以上を占め，特に当時の岡田内閣の閣僚が7名含まれるなど，有力者が多く含まれていることがわかった。

また経済人では銀行，保険の業種が多いが，三井，三菱などの財閥関係者や，満鉄，東洋拓殖などの植民地経営のための国策会社の重役が含まれていた。学者・教育者には法律，経済，人文，工学，自然科学の分野の大

学教授がいた。文化人は小説家、画家が含まれるが、小説家の中には幸田露伴、吉川英治の名前が注目される。宗教人は高麗興丸、思想家は頭山満である。続いて履歴の中で朝鮮に関係する者は22名おり、その中には政務総監経験者が3名含まれている。また高麗神社や埼玉関係者は8名であった。

以上、今回の調査を通じて、奉賛会の構成員には政界、財界、官界を中心とした日本の中枢の地位にある人々が数多く集まっていることがわかった。それだけ、当時の重責を担う人々の中で高麗神社に関心を持つ人が多かったということであろう。さらに、そうした人々を集めた武井文夫、今泉寛橋らのはたらきが大きかったものとも思われる。今後も、奉賛会の成立、事業、寄付金の募集などについて調査していきたい。

<参考文献>

1. 一次文献

武井文夫 [1934a]『高麗神社の由来と奉賛会の趣旨』（高麗神社奉賛会）

— [1934b]『高麗神社小記：高句麗文化と古代日本の関係：武藏野の開拓と高麗民族』（高麗神社奉賛会）

— [1937a]「古代に於ける日鮮同化」（『朝鮮行政』1937年2月号）

— [1937b]「古代に於ける日鮮同化（二）」（『朝鮮行政』1937年3月号）

— [1950]「辱知四十年」（『高嶋米峰自叙伝・米峰回顧談—統高嶋米峰自叙伝：伝記・高嶋米峰』、学風社）1993年に大空社より復刻

広瀬久忠 [1934]「高麗神社奉賛会組織計画ニ関スル運動状況ノ件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref.B4012558100 本邦神社関係雑件 第一巻10.高麗神社（外務省外交史料館）

安成二郎 [1943]「高麗神社」（『白雲の宿』越後屋書房）

2. 二次文献

2-1 単行本

高麗郷研究会 [2013]『六人の総理大臣が誕生最強の出世開運スポット強運パワーの「高麗神社」』（実業之日本社）

2-2 論文

佐藤厚 [2016]「近代の高麗神社」（獨協大学国際教養学部言語文化学科紀要『マテシス

・ウニウエルサリス』18－1)

注

- 1 『東京人名資料事典』第1巻(2004年) p.354
- 2 『昭和人名辞典』第1巻(日本図書センター, 1987年) p.123
- 3 谷紀三朗「宮田脩氏を悼む」(『帝国教育』703, 1937年5月)